

「生を厚くする」を旗印に

昨年末の12月27日、皆さんとご相談しないまま齢（よわい）57歳を迎えました。日本にも二大政党の政治体制が必要であり、自民党に代わり得る政権担当可能な野党がなければ日本の政治は良くなれないと思い定めて、大学卒業後すぐに政治の道に入って35年。政治一筋に生きてきた人生です。

20歳代は政党の政策スタッフとして、経済・財政・税制などの政策立案に従事し、30歳、34歳の時、衆議院選挙に当時の兵庫2区（阪神間・淡路島）から立候補し落選。時を経て44歳で現行の兵庫10区で闘い、これもまた落選。翌年の参議院選挙でようやく当選と15年かかって国会にたどり着きました。現在2勝3敗。打率4割の戦績。あまり誇れたものではありません。

そのような人生を歩んできた私にとって、自民党との政権交代を実現し、与党の一員となり、昨年10月までの1年1ヶ月、厚生労働副大臣の任を賜って、医療、年金、介護、薬事、食品、水道、環境衛生、子育て支援など生活・暮らしの根幹にかかわる行政を担当することができたことは、誠に幸せなことでした。在任中の読者の皆様からのご指導に深く感謝申し上げます。

在任中で最も大きな思い出は、やはり社会保障と税の一体改革です。日本は資源のない国。日本にあるのは人、人材です。日本の将来を考える時、国民が能力を開花できる状況、安心して暮らせる体制をしっかりと築くことが不可欠。社会保障や教育や雇用・労働法制など、人間を大切にする社会を造ることが大きな課題です。政治とは人間の幸せの追求です。今後とも厚生労働各分野における国民の幸せを求めた改革を進めて行かなければなりません。

民主党政権の3年間。足らざることも多くありましたが、社会保障と税の一体改革とともに、地域医療の再生、介護体制の強化、派遣労働の改善、最低賃金の引き上げ、子育て支援の充実、抜本的な難病対策の推進など、進まなかった課題に真面目に取り組んだことも記憶に留めて頂ければ幸いです。

昨年末の衆議院選挙で民主党は大敗を喫しましたが、それによって日本の政治が、競争・効率・自己責任の理念に重点を置き、社会保障にも自立・自助を強く求める政治路線に転じてしまうのではないかと懸念しています。そのような動きに対峙し、共生・公正・支え合いの社会づくりを理念として、国民と社会全体の幸せをめざす政治勢力の存在が不可欠だと痛感しています。

今後とも、「厚生」の文字に熱く込められた「生活、人生、生命、衛生、生身の人間の『生』を厚くする」ことをわが政治人生の旗印としつつ、人間の幸せを追求する本来あるべき政治の姿を求め、人生の全てを尽くして行きたいと心に固く誓っています。